



一貫コース通信

『一年の計は元旦に在り』

あけましておめでとうございます。

新春を迎えましたが、本年も大きな災害(や人災)にみまわれる事無く、また、世界平和を祈りつつも、生徒諸君に取っておおきな大きな実りある年に成ります様、心から祈念します。

令和6年の幕開けの時に、この常套句が意味を失する2つの出来事が生じました。一つは自然災害の『令和6年能登半島大震災』、そして二つ目は人災である羽田空港での『日本航空旅客機と海上保安庁所属の航空機の衝突事故』です。初めに、失われた尊い人命に心からお悔みを申し上げるのと合わせ、被災されました皆様には心からお見舞い申し上げます。戻りますが、特に震災被害には13年前の東日本大震災時の光景が脳裏に浮かび重なりました。私達には、一日も早く平穏な日が訪れる事を願う事しか叶いませんが、現地の人々には気を落さず頑張るって欲しいと願うばかりです。

話題を戻しますが、我が国には『一年の計は元旦にあり』と言う文化があります。これは、年が改まる節目に決意を持つ大切さを教えています。元々ヒトの才能や能力差などありません。総ての人事は、決意と努力の差で自ずと結果が現れます。敢えて繰り返しますが、決意と計画、そして実行(努力)こそが結果を生みます。これは、ヒトが関わる物事一般の理(ことわり)と言って過言ではありません。生徒諸君も、令和6年に“夢と希望”を叶える為、おおきな大きな目標と計画を立てたら必ず実行しましょう。

一方、私達の生活の中では様々な出来事が起こっています。当然、自分の利益になる事もあれば、逆に不利益に繋がるモノも在る筈です。更には、自分に関係ない様に見える事や、判断を何に委ねたら良いのか困る事も在るでしょう。そんな時、自分はどんな行動を取るのでしょうか。単に自分の志向や好みだけからでも自己決定出来ます。あるいは、常に楽な方、安易な道のチョイスも可能です。私は、自問自答の末、基本的に自分と無関係な事はないと思う様にしました。そう言い聞かせる事で、視界が変わる事に大学時代に気づいて、行動の基本に据えたのです。どうか、自分の力を大きく開花させる為にも、感性を研ぎ澄まし、広く様々な事柄に興味関心を持って貰いたいものです。

“かえる事のできるものについて、それをかえるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

かえる事のできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

かえる事のできるものと、かえることのできないモノを、識別する叡智を与えたまえ。”